

Title	「寺院における新型コロナウイルスによる影響とその対応に関する調査」の報告：寺院の対応について
Author(s)	小川, 有閑
Citation	宗教と社会貢献. 2021, 11(1), p. 53-69
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/81456
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

「寺院における新型コロナウイルスによる影響とその対応に

関する調査」の報告

—寺院の対応について—

小川有閑*

Report of the Survey on the Influences of COVID-19 on Buddhist
Temples

—How Buddhist Temples Dealt with COVID-19—

OGAWA Yukan

1. はじめに

2020年1月に日本国内で最初の新型コロナウイルス（以下、COVID-19）の感染が確認され、次第に感染者が増加すると、2月27日には安倍晋三首相が3月2日からの全国の小中高校の臨時休校を要請するに至った。この頃になると、東京都内で寺院住職をつとめる筆者も法要をどう開催するか頭を悩ませるようになった。たとえば、春の彼岸法要の案内をすでに檀信徒宛に郵送していたが、3月1日に無参拝の形に変更するハガキを投函している。数十人の檀信徒が集まる通常の法要形式では三密を防ぐことができないと判断したのだ。3月に入ると、4月、5月に予定されていた法要の延期の相談も相次ぎ、COVID-19の寺院への影響が小さくないことが察せられた。さらに3月の末には、愛媛県内で葬儀のクラスターが発生し、通夜・葬儀の場の感染リスクが顕在化、意識されるようになった。

4月2日、真言宗豊山派が最も早くに法要のガイドライン⁽¹⁾を公表、続いて、浄土宗⁽²⁾（4月9日）、日蓮宗⁽³⁾（4月14日）、真宗大谷派⁽⁴⁾（4月17日）が法要・葬儀のガイドラインを発表している。だが、ガイドラインが出され

* 大正大学地域構想研究所・研究員

ても、結局はそれぞれの寺院が個別に対応しなければならない。4月7日には緊急事態宣言が全国に発出され、寺院・檀信徒ともに混乱が予想された。

こうした状況を踏まえて、筆者の所属する大正大学地域構想研究所・BSR推進センターでは、以下の目的のもとインターネット調査を計画した。

- ① COVID-19 の感染拡大が大きく葬送儀礼が変容する転換点になるかもしれないという仮説に立ち、感染拡大の影響とそれへの寺院の対応を把握する。
- ② 宗派ごとにガイドライン等が出されているが、個々の寺院では感染予防や檀家ケアに苦慮しているのが現実だと思われるので、現時点での実践知・経験知を集約する。
- ③ 現時点で個々の寺院が抱える不安や課題を集約、可視化する。
- ④ 個々の寺院・僧侶の檀信徒等を対象としたメッセージ発信事例を収集する。
- ⑤ 経年調査を実施し、変化・対応、また課題が中長期的にどう変遷していくのかを追う。

④に関して補足すると、各教団レベルで COVID-19 感染拡大の不安にある人々へのメッセージ発信が3月から4月にかけて行われていた。しかし、一般檀信徒がそれらに接する機会はどれほどのものか疑問が残る。現実には教団よりも、菩提寺からの何らかのメッセージの方が確実に届くと思われるため、その事例を収集しようとするものである。

本稿では2020年中に実施した2回の調査から、寺院の感染対策や檀信徒からの相談内容、寺院の抱える不安、檀信徒へのメッセージの発信などを紹介、考察したい⁽⁵⁾。

2. 調査概要

2.1 第1回調査

5月7日から5月24日にかけて Google Form を用いたウェブ調査を実施した。大正大学地域構想研究所のホームページへの掲載や SNS を通じて回答協力者を募った。519件の回答があったが、メールアドレスの重複が2件あり、回答日時の新しいものを採用した結果、517件の有効回答となった。

表 1 都道府県別回答者数

北海道	17	東京都	63	滋賀県	21	香川県	6
青森県	8	神奈川県	34	京都府	18	愛媛県	5
岩手県	3	新潟県	5	大阪府	35	高知県	2
宮城県	5	富山県	20	兵庫県	20	福岡県	17
秋田県	10	石川県	10	奈良県	7	佐賀県	5
山形県	10	福井県	4	和歌山県	2	長崎県	5
福島県	11	山梨県	5	鳥取県	1	熊本県	4
茨城県	12	長野県	4	島根県	4	大分県	5
栃木県	5	岐阜県	4	岡山県	0	宮崎県	2
群馬県	7	静岡県	29	広島県	11	鹿児島県	2
埼玉県	17	愛知県	27	山口県	7	沖縄県	0
千葉県	14	三重県	13	徳島県	0	その他	1
						合計	517

表 2 宗派別回答者数

浄土真宗（各派）	191
浄土宗（各派）	149
曹洞宗	38
真言系（各派）	36
日蓮宗	30
臨済宗（各派）	22
黄檗宗	17
天台宗	15
時宗	9
その他	10
合計	517

表 3 年代別
回答者数

20代	25
30代	115
40代	211
50代	118
60代	38
70代	10
合計	517

表 4
性別回答者数

男性	479
女性	36
その他	2
合計	517

表 5 立場別回答者数

住職	350
副住職	131
寺庭（坊守）	11
その他	25
合計	517

質問項目

- (1) 葬儀についてどのような変化がありますか。
- (2) 法事についてどのような変化がありますか。
- (3) 葬儀や法事の際に特別に取っている対応はありますか。
- (4) 現在、以下の檀務・法務・定例行事をどのように行っていますか。
- (5) (4)のいずれかの項目で「形を変えて行なっている」を選択した方にお尋ねします。どのように行っているか具体的に教えてください。
- (6) これまでにお尋ねした以外で影響のあった行事はありますか。あれば、どのような影響か具体的に教えてください。
- (7) 檀家・門徒・信徒の方々からの新型コロナウイルスに関する相談を受けていますか。あれば、具体的に教えてください。
- (8) 新型コロナウイルスの影響を受けて、今後の法務にどのような変化があるか、気になっていることや心配なことを教えてください。
- (9) 新型コロナウイルスの影響を受けて、新たにはじめたことがあれば教えてください。
- (10) 現在まだはじめていないが、今後取りうる対応があれば教えてください。
- (11) あなたが現在までに取り組んでいることについてお尋ねします。新型コロナウイルスに関して、檀家・門徒・信徒を問わず、人々にすでに伝えていることはありますか。あれば、どのような方法でどのようなことを伝えているか教えてください。
- (12) あなたが今後取り組んでいきたいと考えていることについてお尋ねします。新型コロナウイルスに関して、檀家・門徒・信徒を問わず、人々にこれから伝えたいと思うことはありますか。あれば、どのような方法でどのようなことを伝えたいか教えてください。
- (13) 上記以外にご意見やご感想等ございましたら自由にお書きください。

2.1 第2回調査

12月7日から12月28日にかけて第1回と同様の方式でウェブ調査を実施した。321件の回答の内、メールアドレスの重複が15件（その内3回の重複が2件）あり、それぞれ回答日時の新しいものを採用した結果、304件の有効回答となった。

表6 都道府県別回答者数

北海道	10	東京都	49	滋賀県	7	香川県	1
青森県	8	神奈川県	20	京都府	8	愛媛県	3
岩手県	1	新潟県	3	大阪府	14	高知県	1
宮城県	4	富山県	6	兵庫県	11	福岡県	8
秋田県	2	石川県	4	奈良県	7	佐賀県	3
山形県	7	福井県	4	和歌山県	2	長崎県	4
福島県	6	山梨県	2	鳥取県	1	熊本県	1
茨城県	3	長野県	8	島根県	6	大分県	4
栃木県	2	岐阜県	4	岡山県	0	宮崎県	2
群馬県	1	静岡県	22	広島県	10	鹿児島県	3
埼玉県	13	愛知県	13	山口県	3	沖縄県	0
千葉県	10	三重県	3	徳島県	0	合計	304

表7 宗派別回答者数

浄土宗(各派)	123
浄土真宗(各派)	77
真言系(各派)	23
曹洞宗	22
日蓮宗	20
天台宗	12
臨済宗(各派)	11
時宗	5
黄檗宗	4
その他	7
合計	304

表8 年代別
回答者数

20代	8
30代	54
40代	127
50代	75
60代	31
70代	9
合計	304

表9

性別回答者数

男性	284
女性	20
その他	0
合計	304

表10 立場別回答者数

住職	213
副住職	70
寺庭(坊守)	10
その他	11
合計	304

質問項目

- (1) 葬儀に関して、新型コロナウイルス感染拡大以前と比較して現在ほどのような状況ですか。
- (2) 年回法要に関して、新型コロナウイルス感染拡大以前と比較して現在はどのような状況ですか。
- (3) 現在の月参りの件数は、感染拡大以前と比較してどのような状況ですか。
- (4) 現在、月参りをどのようにおこなっていますか。
- (5) (4)で「形を変えておこなっている」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこなっていますか。
- (6) 2020年のお盆参り（棚経）はどのようにおこないましたか。
- (7) (6)で「形を変えておこなった」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこないましたか。
- (8) 新型コロナウイルス感染拡大以降、檀家・門徒・信徒を寺院に集めて行う定期法要（彼岸法要や施餓鬼法要、報恩講など）をどのようにおこないましたか。
- (9) (8)で「形を変えておこなった」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこないましたか。
- (10) 現在、写経会・法話会・坐禅会・念仏講等の定例行事をどのようにおこなっていますか。
- (11) (10)で「形を変えておこなっている」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこなっていますか。
- (12) 現在、毎年行う落語会やコンサートなどのイベントをどのようにおこなっていますか。
- (13) (12)で「形を変えておこなっている」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこなっていますか。
- (14) 現在、葬儀や法事の際に、特別に取っている対応はありますか。
- (15) 新型コロナウイルス感染拡大に関連し、檀家・門徒・信徒の方々から、年回法要についてどのような相談を受けていますか。
- (16) 新型コロナウイルス感染拡大に関連し、檀家・門徒・信徒の方々から、生活上の相談を受けていますか。あれば、具体的に教えてください。

- (17)新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、今後の法務や寺院運営に関して気になっていることや心配なことを教えてください。
- (18)一方で、前回調査では、新型コロナウイルス感染拡大を檀家・門徒・信徒との関係の再構築や法要の見直しの機会にしたいといった、前向きにとらえる回答もございました。新型コロナウイルス感染拡大は、御自坊にとってどのような機会になると思いますか。
- (19)前回調査（5月7～24日）では、檀家・門徒・信徒を問わず、不安の中にある人々に様々な手段でメッセージを伝えていることが分かりました。発信手段の利用状況について教えてください。
- (20)(19)の項目以外にメッセージの発信手段として活用しているものがあれば教えてください。
- (21)新型コロナウイルス感染拡大の中で檀家・門徒・信徒問わず不安にある人々にメッセージを伝えてみて、手ごたえを感じたことがありましたか。あれば、その理由も合わせて教えてください。
- (22)ご意見やご感想等ございましたら自由にお書きください。

3. 感染対策

第1回(3)と第2回(14)で尋ねた感染対策を見てみたい。2回を比較すると、7か月で消毒液の設置、間隔を空けた座席の配置などの基本的な感染対策が普及したことが示されている。全国と東京では、多くの項目で東京が高い割合を示している。東京の感染者数の増加が寺院の感染対策の意識を高めたのであろう。首都圏（東京・神奈川・千葉・埼玉）と関西（大阪・京都・兵庫）の比較では、首都圏の割合が軒並み高くなってはいるが、「マスクを着用しての勤修」、「法話の際に距離をとる」、「法話をなくすなど時間の短縮」で関西が上回っている。これは、法要を実施する場所が寺院本堂か自宅かの違いを表しているようにも思われる。自宅での法要である月参りでは、檀信徒との距離が近いために僧侶がマスクを着用したり滞在時間を短縮するために法話をなしたりといった工夫がなされているのだろう。

図1 葬儀・法事の際の感染対策(全国/東京)(第1回)

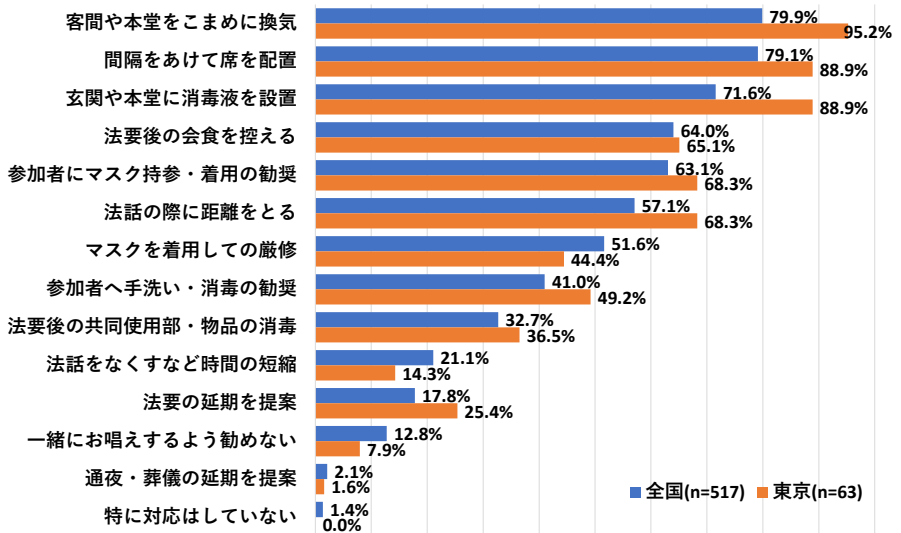


図2 葬儀・法事の際の感染対策(全国/東京)(第2回)

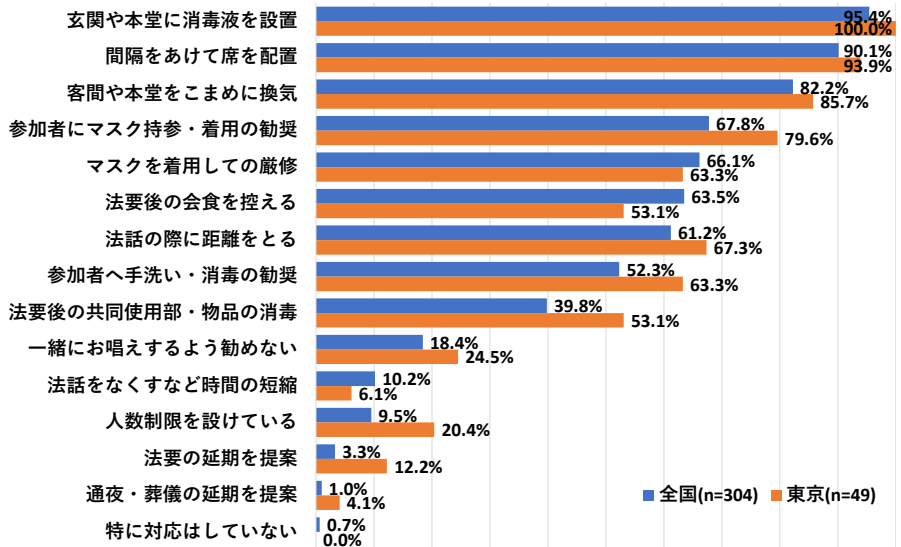


図3 葬儀・法事の際の感染対策(首都圏／関西)(第1回)

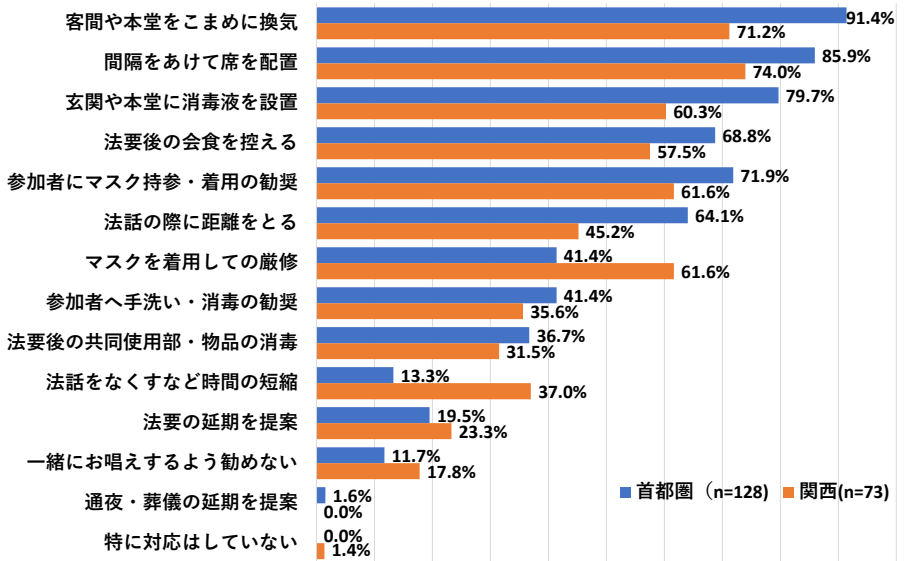
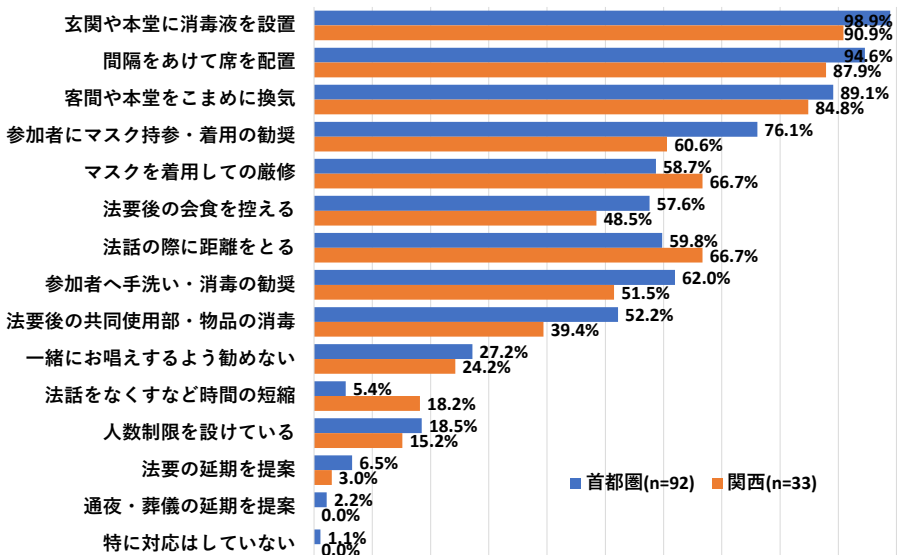


図4 葬儀・法事の際の感染対策(首都圏／関西)(第2回)

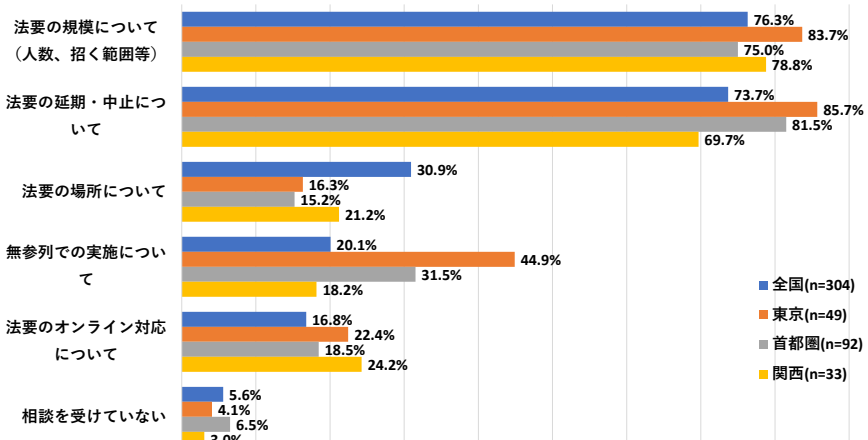


4. 檀信徒からの相談

4.1 法要に関する相談

第2回(15)では、檀信徒からの年回法要に関する相談について選択回答を求めた。この選択項目は、第1回(7)の自由記述回答より抽出したものである。結果からは、檀信徒が法要を施主として計画する際に、参列者の人数や延期について悩んでいることが見受けられる。そして、東京が相談を受ける割合が高いことが分かる。特に無参列での法要実施についての相談は東京がとびぬけて高く、感染状況とともに檀信徒側の簡素化への抵抗の薄さなど法要意識の違いが影響しているとも考えられる。

図5 法要についての檀信徒からの相談(全国/東京/首都圏/関西)



4.2 生活に関する相談

第1回(7)では、247件の回答があり、193件は法要に関する相談であったが、22件は生活の不安やストレスの相談であった。そこで、第2回では(16)で生活上の相談について自由記述の質問項目を設けた。83件の回答があり、内容は経済的困窮や他者との交流が絶たれたことのストレスなどであった。第1回が517人中の22件の回答であったが、第2回では304人

中の 83 件であり、自粛生活が長引く中で檀信徒の生活上の問題が増えていったとも考えられる。特に経済的問題が多く見られ、COVID-19 の経済への影響が垣間見られる。以下にいくつかの回答例を示す。

■経済的困窮・経営不振（31 件）

- ・収入が少なくなり 葬式の布施が出せない。
- ・仕事をなくし生活困窮されている方もおられます。生活保護でのご葬儀が増えた。
- ・電話で会社を解雇され、法要を勤められないとの相談。
- ・観光業で生活が苦しく墓地管理費の納入が遅れて申し訳ないなど。
- ・護持費の減免、一時中断の申し入れ。
- ・飲食業の方が、お客さんの数が減り、経営が厳しいことを聞いた。

■自粛生活、会えない・話せないストレス（22 件）

- ・人と話す事が減った、公民館などでしていたサークル活動が無くなった等、楽しみがないと聞いた。
- ・出かけることがほとんどなくなり、足腰が弱ってきていることへの不安の相談をうけた。
- ・嫁に外出をきつく止められる。
- ・人との関わりが少くなることでの寂しさと孤独感。
- ・家から出ることが少なくなり家族同士で言葉が荒くなった等のストレス性の相談が多い。

■施設での面会禁止（20 件）

- ・入院などの面会に行けなくなり、母親から見捨てられたと言われ、言葉のやり取りに悩まれていると相談を受けた。
- ・病院に見舞いに行けず家族の顔を見られないのが辛い。亡くなられた場合は、直前まで面会できずお別れもゆっくりできなかつたとのことをお話をよく聞きます。

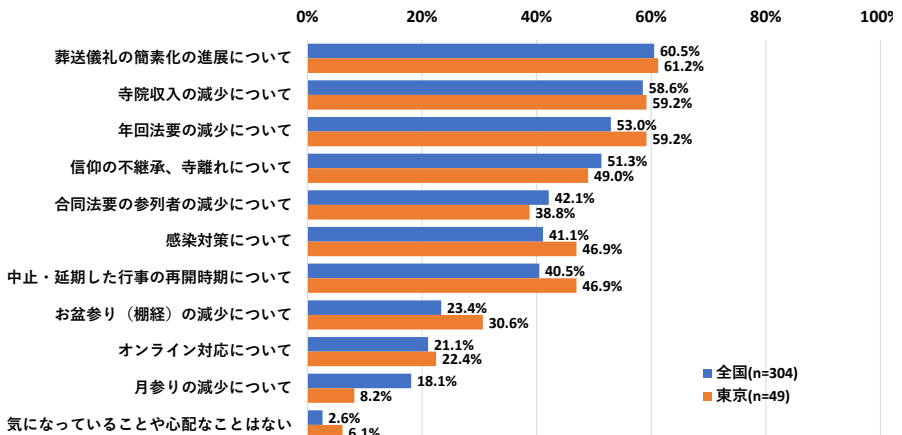
■感染の不安、ストレス（12 件）

- ・自分たちが感染したらこの街に住めなくなるのではないかという不安を語っておられた。
- ・感染拡大地域の人と接すると不安があるが、それは差別になるのではないかと気持ちが揺れ動く。

5. 寺院側が抱える不安

第2回(17)では、これからの葬送儀礼や寺院運営に関して心配に思っていることを質問した。ここでの選択肢も第1回(8)の自由記述回答から抽出したものである。東京と全国を比較しても大きな差は見られない。しかし、第2回(1)の葬儀に関する影響の質問において、東京は「一日葬などの簡素化」が全国で41%のところ、83%という高い数値を示している。全国でも突出して葬儀の簡素化が見られる東京なのだが、「葬送儀礼の簡素化の進展」を心配する割合は、全国とほぼ差が出ていない。このズレからは、COVID-19の流行前から東京では簡素化が進んでいたことが推察される。

図6 今後の法務や寺院運営に関しての心配事(全国/東京)



次に第2回(1)の「一日葬などの簡素化」、「出仕僧侶の数が少ない」の地域別のグラフと、(17)の「葬送儀礼の簡素化の進展」「寺院収入の減少」の地域別のグラフを対照してみる[図7、図8]。すると簡素化が顕著な首都圏よりも、東北、北関東・甲信が簡素化の進展を危惧していることが分かる。実際の簡素化は首都圏ほどではないが、他の地域に比べると高い傾向にあることも分かる。推測の域を出ないが、COVID-19の感染拡大の中で、上述2地域では一日葬などの簡素化が現れ始めており、感染拡大前から簡素化が進んでいた首都圏に比べて、懸念が高まっているのではないだろうか。

図 7 葬儀に関する影響(地域別)

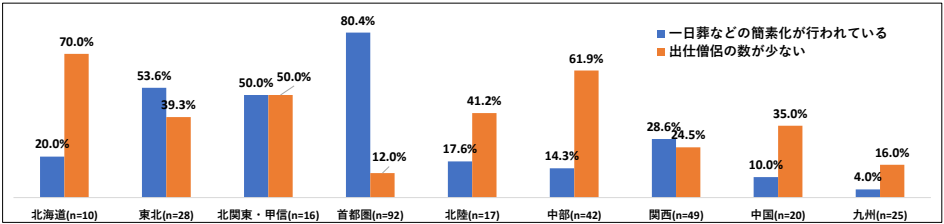
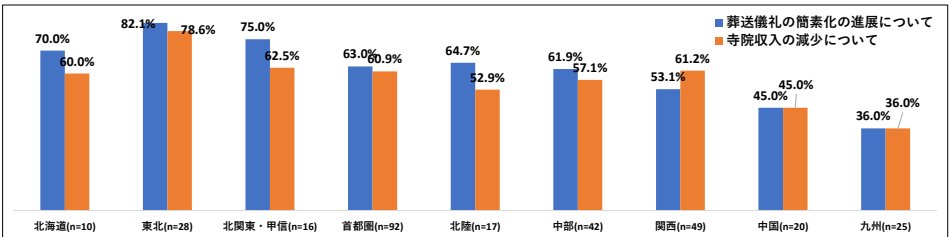


図 8 今後の法務や寺院運営に関しての心配事(地域別)

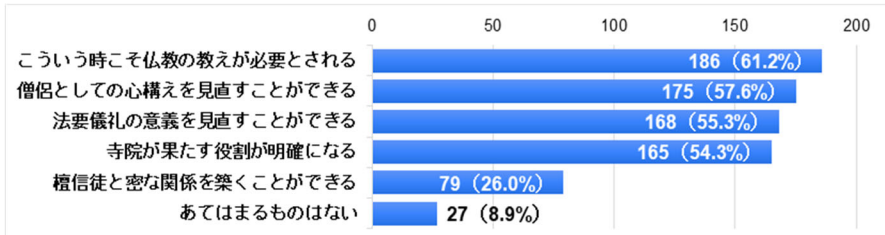


6. メッセージの発信

6.1 メッセージ発信の効果

第1回(10)には、316名が回答をした。過半数の寺院関係者が、感染拡大の不安を抱えた檀信徒に何らかのメッセージを発信しているということだ。その内容は不安への対処法であったり、苦しみの中でこそ仏教が活かされるといった話であったり、会えない状況のなかでも、親身に寄り添おうとする姿勢が伝わるものが多い。全日本仏教会と大和証券が共同で実施した「仏教に関する実態把握調査」(2020年10月1日、http://www.jbf.ne.jp/wp-content/uploads/site211/files/pdf/bukkyoureport2020_102.pdf)でも、「コロナ禍において、菩提寺から連絡があった人ほど菩提寺への満足度が高い」という調査結果が出ており、直接対面がかなわない状況であっても、積極的にメッセージを発信することで、寺院と檀信徒の関係性は向上する可能性があるのである。

図 9 前向きにとらえる



ここで、COVID-19 感染拡大をどのように前向きにとらえるかを尋ねた第 2 回 (18) の回答結果を見てみたい。唯一、過半数に達していない項目は「檀信徒と密な関係を築くことができる」である。多くの寺院関係者は、対面がかなわない状況では、密な関係を築くことは困難と思慮しているようだが、「仏教に関する実態把握調査報告書」からは、必ずしもそうとは言えない。地道なメッセージの発信によって、結果として信頼関係がより深まるということが起こりえることを指摘したい。

6.2 メッセージ発信の手段

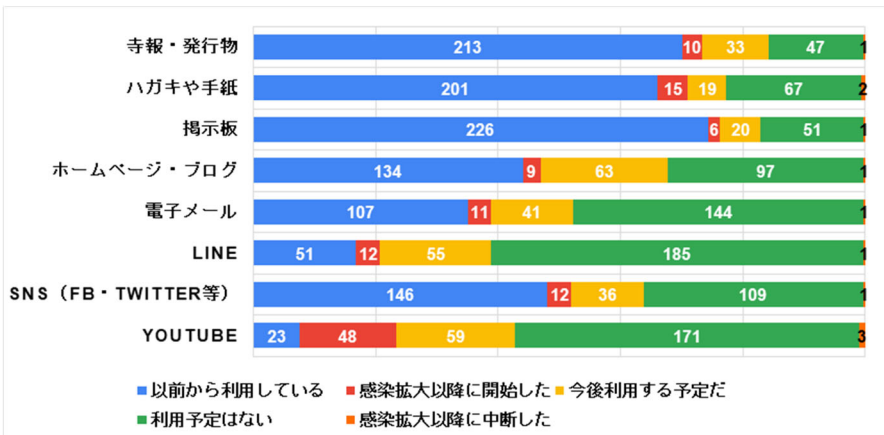
第 1 回 (10) の 316 の回答のうち、手段・媒体が明記されたものを集計した表が表-11 である。法要のオンライン化がメディア等で取り上げられたものの、実際には紙媒体を用いた発信が多かった。檀信徒の高齢化率が高いため、オンライン化によって、高齢者を置き去りにしてしまうことを懸念する声もあり、あらためてアナログ媒体の価値が再発見されたと言っても良いだろう。

図 10 は第 2 回 (19) の発信手段の利用状況を尋ねたものである。ここからも寺報・発行物やハガキ・手紙という紙媒体が感染拡大以前から活用されていたことが分かる。一方、オンライン媒体は今後利用する予定との回答が多く、対面がかなわないなかでのコミュニケーション手段として注目が増していることがうかがわれる。また、YouTube の COVID-19 感染拡大以降に利用開始されている数が他の媒体に比して顕著であり、YouTube 自体のメディアとしての浸透度の高さ、無参拝法要の対応策としての動画配信などが影響しているものと考えられる。

表 11 メッセージの発信手段

インターネット	75	(内訳)
①HP・ブログ	18	(ホームページ13・ブログ5)
②メール	5	
③SNS	36	(Facebok10・Instagram4・LINE3・Twitter2・WhatsApp1・mixi1・SNS(詳細なし)15)
④その他	16	(YouTube6・Zoom3・ほか7(オンライン座禅会2・ネット法話1・ウェブマガジン1・Webのみ(詳細なし)3)
紙媒体	121	
⑤寺報	52	
⑥郵便物	20	
⑦掲示板	26	
⑧その他	23	(手紙・通信文(郵送の記載なし)10・ポスター4・チラシ3・本雑誌3・写経用紙塗り絵2・FAX1)
口伝	55	
⑨法事・法話	33	
⑩月参り	6	
⑪その他	16	(口頭(含お参り時)3) 雑談対話9・電話6・仏教会1)
⑫その他	5	(供物・お札・御朱印・絵像・依頼記事各1)

図 10 発信手段の利用状況



7. おわりに

本調査には、ウェブ調査ゆえにインターネットに親和性のある寺院関係者に回答者が限定されてしまうという点で限界・偏りがあることは否めない。また、回答者の宗派も日本の宗派別寺院数の比率とは大きく異なり、全国に7万の寺院があることを考えれば300～500の回答者数で正確に我が国の寺院の置かれた状況を把握することは困難だ。

ただし、そうした制約は承知しつつも、葬送儀礼が受けている影響、檀信徒・寺院の抱える悩みなどある程度の傾向を捉えることはできたのではと考える。その影響と対応については、一過性のものか、長期的な変化となるのか、経年調査をしていくことが必要だろう。

本調査からは、僧侶にも檀信徒にも、先の見えない不安や戸惑いがあることが明らかとなったが、各地の寺院がCOVID-19感染拡大のなかで、個々に模索しながら、奮闘している姿を見ることもできた。ある回答者は、「平生から『心の距離』を密にする活動やお話してきたつもりであり、今回はその「答え合わせ」というか回答をいただいたように思う」と記している。筆者はこの言葉から、東日本大震災の被災地寺院を思い出す。日常と非日常は断絶されているのではなく、地続きである。大震災以前から地域と良好な関係を結んでいた寺院は、震災後、被災者の心の拠り所となった⁶⁾。このCOVID-19感染拡大以前の各寺院の真摯な取り組みは、感染拡大という非日常においても当然生きてくるだろう。そして、今の非日常のなかでの寺院の取り組みは、今後、ウィズコロナ、アフターコロナの時代に、また生きてくるはずだ。逆に言えば、今、何もしていなければ、檀信徒との心の距離は離れる一方だろう。

本調査が寺院の活動に資するものとなり、ひいては寺院が檀信徒や不安の中にある人々を支え、COVID-19感染拡大のなかでも、少しでも生きづらさや不安のない社会が実現すれば幸いである。

謝辞

本研究は JSPS 科研費 JP20K20336 の助成を受けたものである。

註

- (1) http://www.buzan.or.jp/pdf/20200402_important_news.pdf (2021年3月30日現在)
- (2) <https://jodoshu.net/wp/wp-content/uploads/2020/04/7f17ace62c20cbacabadf1671074d295.pdf> (2021年3月30日現在)
- (3) https://www.nichiren.or.jp/information/files/2020/04/about_covid19_nichirenschu.pdf (2021年3月30日現在)
- (4) <http://www.higashihonganji.or.jp/news/info/35854/> (2021年3月30日現在)
- (5) 葬儀・法要等への影響については、高瀬 [2021] を参照のこと。また、調査結果の単純集計は大正大学地域構想研究所ホームページに掲載している。
第1回結果 <https://chikouken.org/wp-content/uploads/2020/06/036f50d3c678dd30836a3b9afe9a4bc0.pdf>
第2回結果 <https://chikouken.org/wp-content/uploads/2021/02/bbd69a86ee4fcf43e1af019e4b4ba36d.pdf>
- (6) 星野・弓山 [2019] には、被災地での宗教者の活動が震災前からの関係性由来するものである事例が紹介されている。

参考文献

高瀬 顕功 2021 「新型コロナウイルスがもたらした寺院活動への影響—寺院向けウェブ調査より—」『宗教と社会貢献』11(1): 31-52.

星野 英紀・弓山 達也 編 2019 『東日本大震災後の宗教とコミュニティ』ハーベスト社